

平成28年11月15日



川崎市と小田急電鉄株式会社との「小田急沿線まちづくり」に関する包括連携協定を締結します

小田急線沿線は、鉄道の開通や駅の開業とともに、まちづくりが進展する一方で、大学や文化・芸術施設に加え、生田緑地や多摩川などの自然環境が豊富なエリアとなっています。

また、小田急電鉄株式会社（以下、小田急電鉄という）では、平成29年度に東北沢～和泉多摩川間の複々線の完成を予定しており、これにより、ラッシュ時間帯の混雑緩和や所要時間の短縮などの輸送改善が図られることから、川崎市域内における都心方面へのアクセスが向上し、沿線地域のポテンシャルも高まることが期待されます。

これらを踏まえ、小田急電鉄が持つノウハウや両者が持つ資源や強みなどを生かし、概ね10年後を見据えて、地域特性や地域資源を活かした暮らしやすい沿線の実現に向けた取り組みを連携・協力して推進していきます。

包括連携協定の詳細は別紙の通りです。

1 連携・協力事項

- (1) 駅を中心としたまちづくりや公共交通機能の強化等に関する事
- (2) 暮らしやすいまちづくりに関する事
- (3) 地域資源を活かした豊かなまちづくりに関する事
- (4) 鉄道沿線の魅力向上・活性化に関する事

2 添付資料

- 資料1 川崎市と小田急電鉄との包括連携協定の締結
- 資料2 川崎市と小田急電鉄との包括連携協定における主な取組内容

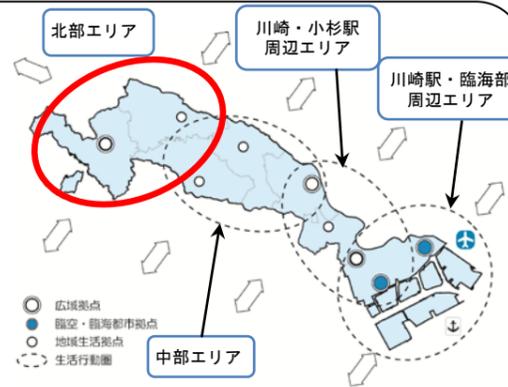
1. 背景・目的

●川崎市における小田急線沿線は、麻生区、多摩区を含む北部エリア*に位置している。

※「北部エリア」：市民の日常的生活エリアである「生活行動圏」の1つ

広域拠点：新百合ヶ丘駅周辺地区

地域生活拠点：登戸・向ヶ丘遊園駅周辺地区

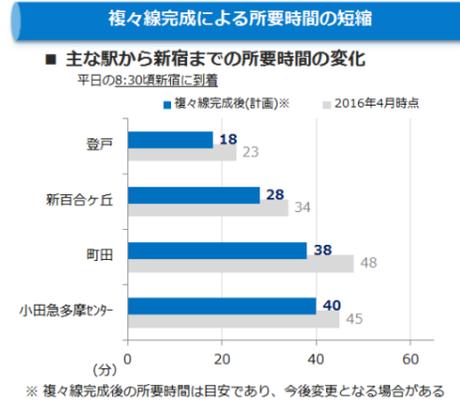


●小田急線は昭和2年に開通した。昭和35年に百合丘団地の開設に伴い百合ヶ丘駅が開業、その後も急速な宅地開発が進展した。また、昭和49年に小田急多摩線が開通、新百合ヶ丘駅が開業した後、昭和50年代以降も、計画的な市街地整備が行われたほか、新百合ヶ丘駅周辺地区では、都市型住宅・商業等の都市機能の集積に加え、大学や文化・芸術施設等が立地する地区の特徴を活かしたまちづくりが進展した。

●北部エリアは、山坂が多く、駅勢圏に比べエリアの奥行きが広いこと、駅までの路線バスでのアクセスが多いほか、大学や文化・芸術施設に加え、生田緑地や多摩川などの自然環境も豊富なエリアとなっている。

●小田急電鉄では、平成29年度に東北沢～和泉多摩川間の複々線の完成を予定しており、これにより、ラッシュ時間帯の混雑緩和や所要時間の短縮などの輸送改善が図られ、北部エリアにおける都心方面へのアクセスが向上し、ポテンシャルも飛躍的に高まることが期待される。また、小田急線沿線の観光地などとの連携や交流による活性化も期待される。

●上記の状況を踏まえ、この度、両者で、沿線のまちづくりに関する方向性が確認されたことから、地域特性や地域資源を活かした暮らしやすい沿線の実現に向け、川崎市と小田急電鉄が包括連携協定を締結する。



2. 連携・協力の基本的な事項

- (1) 駅を中心としたまちづくりや公共交通機能の強化等に関する事
- (2) 暮らしやすいまちづくりに関すること
- (3) 地域資源を活かした豊かなまちづくりに関すること
- (4) 鉄道沿線の魅力向上・活性化に関する事

3. 連携・協力の主な取組

(1) 駅を中心としたまちづくりや公共交通機能の強化等に関する事

小田急線の複々線完成による輸送改善の効果を北部エリアにおいて最大限発揮するため、鉄道駅周辺を中心に、地域特性に応じたまちづくりや公共交通の機能強化等に向けた取組を推進します。

【主な取組】

- 新百合ヶ丘駅周辺地区（広域拠点）の取組
- 登戸駅・向ヶ丘遊園駅周辺地区（地域生活拠点）の取組
- 身近な駅周辺の取組

(2) 暮らしやすいまちづくりに関すること

高齢者から子育て世代まで誰もが安心して豊かに住み続けられる街を実現するため、リノベーション等の手法を活用した既存ストックの活用強化と流通促進、市民の暮らしをサポートする多様な生活支援サービスの充実や地域交流の場の提供等に向けた取組を推進します。

【主な取組】

- 多様な生活支援サービスの充実
- 空き家の利活用・リノベーション・住み替え促進

(3) 地域資源を活かした豊かなまちづくりに関すること

首都圏を代表する緑豊かな生田緑地や多摩川などの自然資源や小田急多摩線沿線にある農業資源などを活かしたまちづくり、北部エリアや小田急沿線に点在する大学や文化・芸術施設との連携等に向けた取組を推進します。

【主な取組】

- 生田緑地との観光連携の強化
- 黒川駅周辺のまちづくり
- 都市農業の振興

(4) 鉄道沿線の魅力向上・活性化に関する事

新たな産業の創出につながる施策、地域に関する情報や魅力の発信、多様な主体との協働等に向けた取組を推進します。

【主な取組】

- 地域情報誌の発刊
- かわさき Wi-Fi の整備

(1) 駅を中心としたまちづくりや公共交通機能の強化等に関すること

新百合ヶ丘駅周辺の取組

- ・ 南口駅前広場の再整備による交通環境改善と併せ、公共交通の利用環境の改善に向けた取組を推進します。
- ・ 文化・芸術などの地域資源を活かしつつ、将来の周辺環境の変化等を見据え、新たな土地利用転換などに伴う適切な土地利用誘導や、ソフト面を含めた取組を推進します。



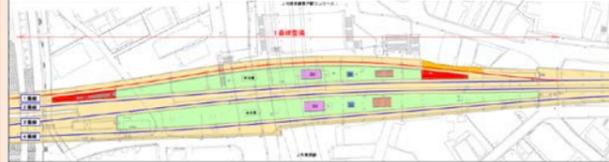
新百合ヶ丘駅南口
【一般車・タクシー乗り場】
(現在)



再整備イメージ
(UDタクシー乗り場)

登戸・向ヶ丘遊園駅周辺の取組

- ・ 登戸駅構内4線化など両駅の拠点機能を高めていきます。
- ・ 登戸土地区画整理事業による安全で快適な暮らしを支える都市基盤整備を推進するとともに、駅前の魅力と賑わいの向上に向けて高架下の有効活用、多摩川や生田緑地との連携等を図ります。



登戸駅構内整備計画図

身近な駅周辺の取組

- ・ 黒川駅や柿生駅など身近な駅周辺では、地域の特性や課題に応じて、段階的に、交通や生活の利便性の充実に向けた取組を推進します。

(2) 暮らしやすいまちづくりに関すること

多様な生活支援サービスの充実

- ・ 小田急電鉄が提供する「小田急暮らしサポート」などのネットワークを活かして、市の「**地域見守りネットワーク事業**」と相互連携を図り、地域社会全体で見守りの充実を図ります。
- ・ **サービス付き高齢者向け住宅を整備**するなど、高齢者も暮らしやすい街の実現を推進します。



地域見守り
ネットワーク

レオダ新百合ヶ丘
【サービス付き高齢者向け住宅】
(平成 28 年 12 月開業予定)



空き家の利活用・リノベーション・住み替え促進

- ・ 小田急グループが開設する空き家対策相談窓口などを通して、所有者のニーズに即した利活用の提案や、地域交流の場などへの転用などを検討し、空き家の利活用を推進します。
- ・ **リノベーションなどの手法**を活用して既存ストックの資産価値向上や流通促進等を推進します。



住み替え促進イメージ

ホシノタニ団地
(小田急電鉄が座間市にある
社宅をリノベーション)



(3) 地域資源を活かした豊かなまちづくりに関すること

生田緑地との観光連携の強化

- ・ 小田急線の駅構内で、生田緑地の魅力を発信する案内や装飾等の取組を推進します。
- ・ 登戸駅から運行する「川崎市 藤子・F・不二雄ミュージアム」行きの直行バスとあわせ、生田緑地と登戸・向ヶ丘遊園駅周辺、多摩川との回遊性強化に向けた更なる取組を推進します。

【これまでの取組例】



「川崎市 藤子・F・不二雄ミュージアム」
5周年記念企画(登戸駅)
©Fujiko-Pro

黒川駅周辺のまちづくり

- ・ 黒川駅周辺において、賑わいや交流機能の導入に向け、**段階的な整備を検討**するとともに、オープンスペース等を活用し、地域の特性に沿った施設の導入などを検討し、地域資源を活かしたまちづくりを推進します。
- ・ 南黒川地区で、**読売日本交響楽団の活動拠点となる練習施設を誘致**し、麻生区の芸術のまちづくりを推進します。



黒川駅

黒川駅南口



黒川駅周辺(現況)

都市農業の振興

- ・ 麻生区では、黒川・岡上・早野地区の農業振興地域をはじめ、市内の農地、山林の43%が区内に集積するなど、豊かな地域資源が存在しており、今後、地域資源や小田急電鉄のノウハウを活かし、多様な主体と連携した川崎ならではの都市農業の振興に向けた取組を推進します。

(4) 鉄道沿線の魅力向上・活性化に関すること

地域情報誌の発刊

- ・ 小田急沿線の麻生区・多摩区を対象とする**地域情報誌「川崎ぴあ」**を発刊し、行政サービスの紹介も含めた小田急沿線の川崎市・北部エリアの魅力発信を図ります。(平成 28 年 11 月発刊)



例. 厚木ぴあ、
藤沢ぴあ

かわさき Wi-Fi

- ・ 鉄道関連施設と公共施設が連携した「かわさき Wi-Fi」のアクセスポイントを整備することにより、災害時における通信手段の確保及び市民利便性の向上を図ります。